

# 調査結果の概要及び今後の取組について

平成30年4月17日に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要及び今後の取組について、お知らせいたします。

この調査は、小学6年生と中学3年生を対象とし、「教科に関する調査」について小学校は国語・算数・理科、中学校は国語・数学・理科の3教科を実施し、また児童生徒の学習意欲や学習環境等を調査する「質問紙調査」も併せて実施いたしました。（理科は3年に1回実施）

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立て、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的とし、実施したものです。

本教育委員会では、町内小中学校全体の調査結果の概要と今後の取組について広く町民の皆様にお知らせし、子どもたちの学力向上・学習環境の改善に向けて、学校・保護者・地域が一体となった取組を進めてまいります。ご理解ご協力をお願い致します。

## 1 教科に関する調査結果について

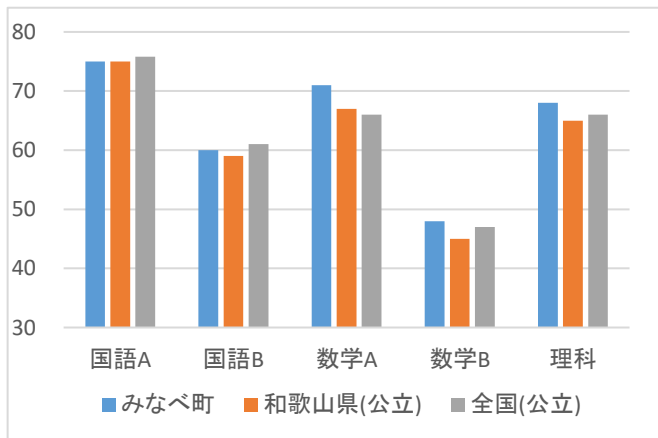
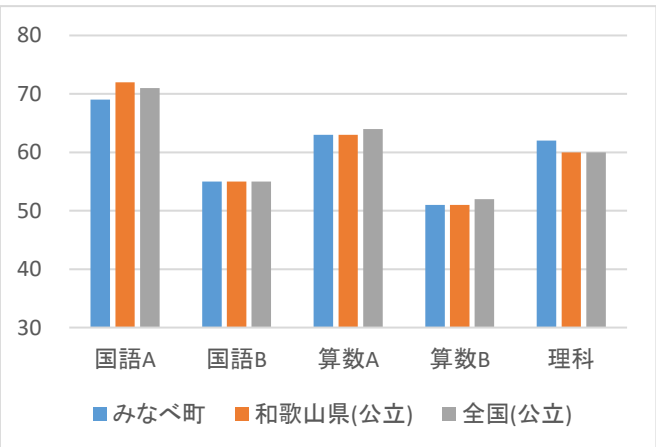
(1)平均正答率(%)

小学校 第6学年

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
みなべ町	69	55	63	51	62
和歌山県(公立)	72	55	63	51	60
全国(公立)	71	55	64	52	60

中学校 第3学年

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
みなべ町	75	60	71	48	68
和歌山県(公立)	75	59	67	45	65
全国(公立)	76	61	66	47	66



※国語A、算数・数学A:主として「知識」に関する問題  
 国語B、算数・数学B:主として「活用」に関する問題

小学校の平均正答率は、理科が全国より高く、国語B、算数A、Bは全国とほぼ同程度かやや低い結果でした。国語Aはまだ全国との差はありますが、ここ数年で一番差が縮まりました。

中学校平均正答率は、数学A、B、理科について全国より高く、例年この傾向が続いています。課題のある国語については、国語Bで全国との差が例年より縮まり、思考力・読解力が向上しつつあります。

(2)各教科の学習指導要領の領域別平均正答率

学年	小学校6年生		中学校3年生	
教科	国語A	国語B	国語A	国語B
学習指導要領の領域				
話すこと・聞くこと	—	—	—	—
書くこと	○	—	—	▽
読むこと	○	○	—	—
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	—	—	—
教科	算数A	算数B	数学A	数学B
学習指導要領の領域				
数と計算/数と式	▽	—	◎	○
量と測定/図形	—	—	—	—
図形/関数	—	▽	○	—
数量関係/資料の活用	—	—	◎	—
教科	理科		理科	
学習指導要領の領域				
物質/物理的領域	—		—	
エネルギー/科学的領域	—		—	
生命/生物的領域	○		○	
地球/地学的領域	—		—	

国語	小学校では、昨年度全ての領域において全国と同程度の状況でしたが、今年度は書くこと、読むことの領域で全国を上回りました。経年でみても、国語力向上の取り組みの成果が出ています。中学校では、昨年に引き継ぎ国語Bの書くことに課題があります。国語科の課題克服の取り組みは今後も継続が必要です。
算数・数学	小学校は昨年度に比べ、問題形式の変化などもありA問題では数と計算、B問題では図形の領域で課題がありました。中学校では、例年数学Aの各領域で学力の定着がみられ、今年度も引き続き成果が出ていました。
理科	小学校・中学校において、生命／生物的領域において高い正答率で、その他の領域においては、ほぼ全国と同程度の平均正答率です。前回(H27)の調査に比べると、やや中学校の正答率が下がりました。

※ 小学校の領域名/中学校の領域名

- ◎：全国平均に比べ5ポイント以上高い      ○：全国平均に比べ3～5ポイント高い  
 ▼：全国平均に比べ5ポイント以上低い      ▽：全国平均に比べ3～5ポイント低い  
 —：全国平均との差が3ポイント未満

(3)教科の概要

小学校

国語

- ◇目的に応じて必要な情報を読み取ることがよくできています。
- ◆漢字の書き取りの出題方法が例年と違ったため、漢字の正答率がかなり低くなりました。同音異字の漢字の書き取りに課題があります。
- ◆目的や意図に応じて、必要な内容を整理して文章を書くことに課題がみられます。

算数

- ◇円周率の意味について正しく理解できています。
- ◆小数で表された単位量あたりの数量関係を、数直線上に表すことに課題がみられます。
- ◆小数で表された数量関係について、除法を利用し、問われた内容を求めていくことに課題があります。

理科

- ◇骨と骨のつなぎ目について、正しく用語を覚え理解できています。
- ◆電流の流れ方について、予想を基に実験結果を考察することに課題があります。
- ◆流れる水の動きによる土地の侵食について実験を基に分析し、その理由を記述することに課題があります。

今後の取組について

- ・覚えた漢字を、文の中で正しく使い、問われ方にかかわらず漢字が書けるよう指導に取り組みます。
- ・小数について計算の意味や方法を、言葉・数・式・図・数直線を用いて考え、説明する活動を丁寧に指導します。
- ・理科では、観察実験を重視し、実験結果の予測・分析・考察の記述などに児童が主体的に取り組める授業作りを行います。また、学習内容と日常生活との関係性も大切に指導します。
- ・文章を正しく読み取り、目的や意図に応じた自分の考えを書けるよう機会を設け、思考力・表現力の育成に努めます。

## 中学校

### 国語

- ◇基本的な日常漢字の読みができています。
- ◆歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して読むことに課題があります。
- ◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと(慣用句も含む)に課題がみられます。
- ◆問いの条件に応じた内容について、自分の感じたことや考えたことを文章に書くことに課題があります。

### 数学

- ◇正の数、負の数、文字の式の計算など基本的な計算がよくできています。
- ◇確率の意味を理解し、表などを利用し、確率を求めることができます。
- ◇絶対値の意味を正しく理解できています。
- ◆事象について表やグラフまたは式と対応させ、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。

### 理科

- ◇地震の揺れの強さが震度、S波の揺れが主要動であることなどの知識が定着しています。
- ◇蒸散の働きと意味を正しく理解しています。
- ◆風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能の活用について課題がみられます。
- ◆オームの法則を使って、抵抗の値を求めることに課題があります。

### 今後の取組について

- ・慣用句やことわざに日常的に触れる機会や、使う機会を意識的に増やします。
- ・数学の関数分野の知識理解に課題が引き続きみられるため丁寧に指導します。
- ・習得した理科の知識・技能を活用し、観察や実験結果の分析や考察を興味を持って主体的に行う授業作りを進めます。

## 2 質問紙の調査結果について

全国と比べ、特徴的な結果の出ている質問について紹介します。

(尚、今年度は質問項目に変更が多く、国語に関する質問はありませんでした)

### (1)「授業はよく分かりますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校・中学校とも全国よりかなり高くなっています。各校において、より良い授業作りの成果が出ています。

よく分かる			みなべ町	全国	差異
	小学校	算数	93	83	10
		理科	96	89	7
	中学校	数学	82	71	11
理科		81	70	11	

(単位:%)

### (2)「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」

「している、どちらかといえばしている」を合わせると、小学校は全国とほぼ同じ状況ですが、中学校では大幅に低くなっています。家庭学習の必要性、予習・復習の大切さを自覚し、実行出来るよう指導していきます。

している			みなべ町	全国	差異
	小学校	64	63	1	
	中学校	45	55	▲ 10	

(単位:%)

**(3)「平日授業以外でどのくらい勉強しますか／平日授業以外でどのくらい読書しますか」**

平日において、「1時間以上」勉強する児童・生徒が昨年度より小学校は6%増加しこの2年間で13%増加しました。中学校では昨年と同程度でしたが、平日「勉強しない」生徒が9%とここ数年で一番多くなっています。

平日の読書については、小学校において全国より高く、学校司書の導入から4年目となり、読書活動が広がってきています。中学校においても、今年度から学校図書館担当職員の支援が始まり、小学生で高まった読書への興味が持続できるよう取り組みを進めています。

		小学校			中学校		
		みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
平日の学習	時間						
	1時間以上	64	66	▲ 2	66	70	▲ 4
	1時間未満	35	31	4	25	25	0
	しない	1	3	2	9	5	▲ 4
平日の読書	30分以上	43	41	2	27	31	▲ 4
	10分未満	20	15	5	16	14	2
	しない	6	19	13	26	33	7

(単位:%)

**(4)「今住んでいる地域の行事に参加していますか／地域や社会での問題や出来事に関心がありますか」**

「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合わせると、小学校・中学校共に全国に比べ地域行事への参加が多くなっています。今後も、ふるさとを誇りに思い、地域の出来事に関心を持てる取り組みを進めています。

		みなべ町	全国	差異
て参 い加 るし	小学校	70	63	7
	中学校	63	46	17
るが 関あ 心	小学校	64	64	0
	中学校	61	59	2

(単位:%)

**(5)「自分には良いところがあると思いますか／先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」**

「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合わせると、小学校では自己肯定感が高い状況ですが、中学校では全国平均並になっています。児童生徒と教職員の良好な人間関係が小学校・中学校において現れており、今後も自己肯定感・自己有用感が高まるよう取り組みを進めています。

		みなべ町	全国	差異
こ良 ろい がと ある	小学校	93	84	9
	中学校	77	79	▲ 2
れて認 るくめ	小学校	96	85	11
	中学校	92	82	10

(単位:%)

みなべ町の学力状況は、経年でみると少しずつ改善されています。国語力向上を学習全般の問題としてとらえ、各学校で取り組んできた成果が小学校・中学校において出てきました。今後も、小中連携を深め、読書習慣の継続、グループ学習や発表力などを引き続き中学校でも深め、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組めます。

また、児童生徒たちが、自分の良さや相手の良さを大切にし、学校生活や地域社会の中で得た経験を基に、将来なりたい自分の姿に向かって成長し、一人ひとりが輝く学校づくりを進めてまいります。